

Imagin21

創
今
造
人

創造は時代を越える



奈良ホテル



大和郡山市民会館



黒滝村旧役場庁舎



奈良少年刑務所



奈良教育大学教育資料館



奈良女子大学記念館

平成24年も残すところわずかとなりました。『イマジン21』第24号をこうしてお届けできますことは、ご協力いただいた皆さま、発行をお待ちくださる皆さまのおかげだと感謝しております。

冒頭の特別企画は奈良大学の市川良哉理事長にお願いいたしました。同大学がモンゴル科学アカデミー考古学研究所と結ぶ学術協定の意義が語られています。

同大学が今夏催行したモンゴル視察ツアーに私も参加いたしました。遊牧民の住居「ゲル」で過ごした夜、天の川を仰ぎ見、大自然の尊さに感激しました。

遺跡発掘と文化財保護は、同大学が得意とするところ。モンゴルでの学術研究をささやかながら応援し、新たな成果が得られることを期待しています。

奈良ゆかりの芸術家を紹介する「奈良の artist」は書家の藤岡都逕先生です。記事中の「書は心をえぐり出すもの」とは、「書はその人が正直に出る」と説く藤岡先生ならではの哲学なのでしょう。

自然に触れ、歴史に学び、芸術に教わることは、文化的な営みを充実させてくれます。その担い手として『イマジン21』が皆さまのお手元に届きますように。

代表取締役社長 近東 宏光

Imagin21



特別企画

奈良とモンゴルをつなぐ学術交流 1 ~ 3

奈良の artist 04 藤岡 都逕 4 ~ 5

NARA 道の駅  station ③ 吉野路 大淀iセンター 6 ~ 7

まちかど探索 奈良県 近代建築散歩 8 ~ 9

Essay 印刷文化逍遙 24 10 ~ 11

特集 奈良の城  五 宇陀松山城 .. 12 ~ 13

付録 手帳の付録

職場風土改革促進事業への取り組み

少子高齢化社会にあって、これからは益々多様な働き方が企業に求められております。一方、働く人は、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）をより重要視する中において、企業としてはそれらを必要十分に充足する環境づくりが不可欠であります。

弊社は、平成14年にはISO14001を認証取得、また18年にはプライベートマークを取得するなど、時代のニーズに合致した経営推進に努力してまいりました。そして、労働時間等設定改善法が施行されて（平成18年）以後、社内で委員会をたちあげ「有給休暇を取得しやすい環境づくり」をめざし、残業が避けて通れない業界にあって、残業時間を少しでも減少する努力なども含め企業理念の中にある「人間生活の向上」に邁進したいと考えております。

人間生活の向上とは、従業員の仕事と家庭の両立を支援することでも大きく関係しており、具体的な取り組みは下記の通りです。

- 取組 具体的な
- ① 仕事と家庭が両立できる働きやすい会社作り（ワーク・ライフ・バランスの推進）
 - ② 育児・介護休暇制度の充実を図る
 - ③ その制度を利用しやすい環境作り
 - ④ 管理職層への研修の実施
 - ⑤ 両立支援制度の労働者への周知徹底

代表取締役社長 近東 宏光



編集/制作/発行
共同精版印刷株式会社 <http://www.kspkk.co.jp/>

本社：〒630-8013 奈良市三条大路2丁目2-6 TEL 0742-33-1221 FAX 0742-33-7035
大阪支社：〒542-0082 大阪市中央区島之内1丁目12-3 TEL 06-6271-7951 FAX 06-6271-7954
東京支社：〒116-0014 東京都荒川区東日暮里5丁目6-4 TEL 03-3802-4741 FAX 03-3802-4740



遺跡調査の国際学術協定

日本・モンゴル国交樹立四十周年となる二〇一二年の夏、国際学術プロジェクト「モンゴル遺跡調査研究」に取り組む奈良大学は、モンゴル科学アカデミー考古学研究所との学術研究交流を今後十年間継続する協定を締結しました。

大学創立四十周年を記念して二〇〇九年にスタートした同プロジェクトはすでに遺跡遺物の発掘や測量、人的交流など多くの成果を残しています。今夏の協定継続印式に帯同したときの様子を中心に、モンゴルと本

学の取り組みを紹介いたします。

このたびのモンゴルは、私自身、二度目の訪問でした。関西国際空港から北京国際空港へ、さらに首都ウランバートル郊外にあるチンギスハン国際空港に飛びました。総飛行時間は約四時間です。

空港から市街地まで前回はバスで三十分でしたが、渋滞がひどく、二時間もかかりました。中心部では高層住宅やビルの建設が活発です。鉱物資源を主とするモンゴルの経済発展の一端を見ることができました。

ウランバートルから離れると、大草原の景観がすばらしく、遊牧民の移動式住居「ゲル」にも



奈良とモンゴルをつなぐ学術交流

特別企画

学校法人奈良大学理事長

市川良哉



モンゴルと日本の院生・学生が協力して進める発掘

一泊しました。親日的な人々が多く、街には親子丼や天ぷらなど日本食の食堂もあります。前回は私も滞在中においしくいただきました。

大相撲でモンゴル出身力士が活躍しているからでしょうか、モンゴルを身近に感じる人が増えていくように思います。初めてモンゴルを訪れた同行メンバー

からは「また来たい」という声が聞かれました。

チントルゴイ・プロジェクト

さて、冒頭の国際学術プロジェクトは、モンゴル科学アカデミーの要請にも応じる形で実現したものです。まず、二〇〇九年か

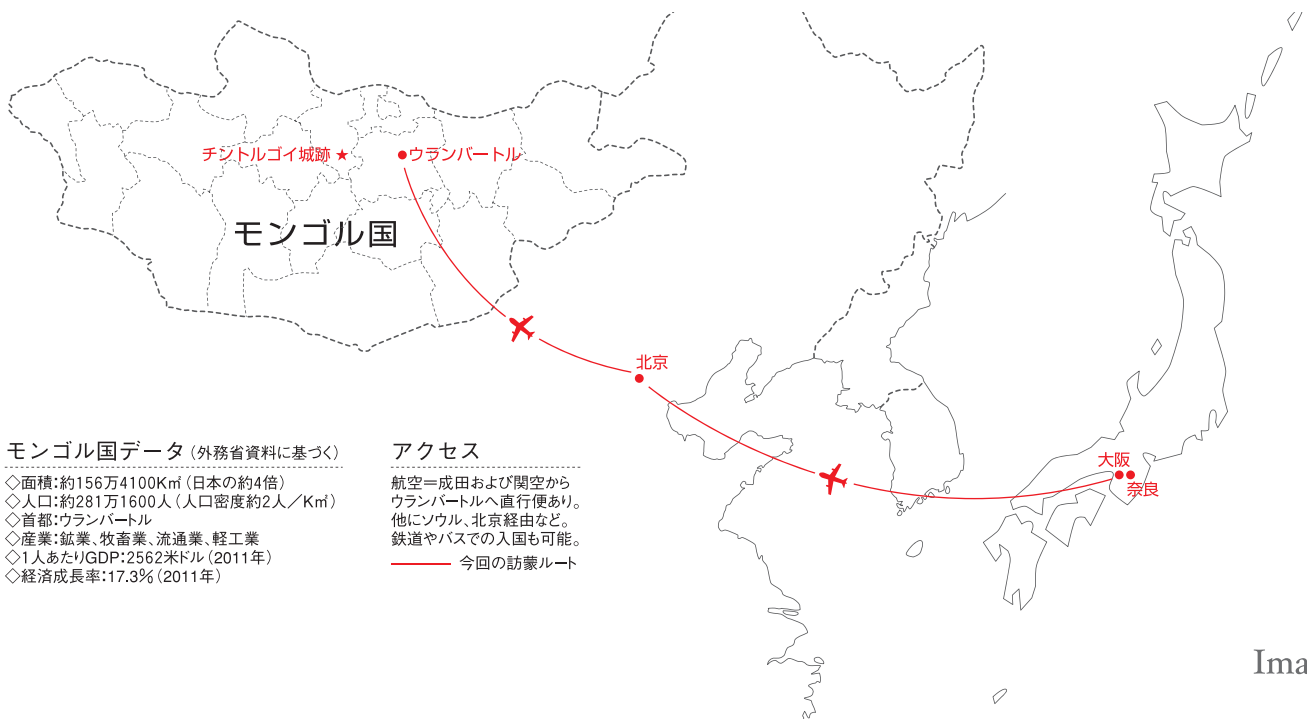
ら三年計画で、調査研究『モンゴル遼代城郭都市の構造と環境変動』をスタートさせました。

具体的には、「遼」時代（九一六年〜一二二五年）の城郭都市遺跡であるチントルゴイ城跡の発掘と古環境の調査研究です。

日本とモンゴルの研究者・学生らが協力し、チントルゴイ1号窯跡の発掘（二〇〇九年）、北城東甕城の発掘（二〇一〇年）、土台木と基礎石列の発見による遼時代の城門の全貌解明（二〇一一年）など、次々に成果をあげています。

窯跡の成果はモンゴル国立カラコルム考古博物館に常設展示されています。また、チントルゴイ城跡の建設には平城宮と同じ「唐尺」が用いられていたことが判明しています。

古環境調査では窯跡の炭化物を分析。大草原がはるかに広がる現在のチントルゴイの周辺が、当時は木々や水に恵まれた環境だったと推察できるデータを得ました。城郭都市の形成解明、遺跡や自然の保存・活用を考えるとき、環境の変動や実態を明らかにしていくことも欠かせません。



モンゴル国データ（外務省資料に基づく）

- ◇面積:約156万4100Km²(日本の約4倍)
- ◇人口:約281万1600人(人口密度約2人/Km²)
- ◇首都:ウランバートル
- ◇産業:鉱業、牧畜業、流通業、軽工業
- ◇1人あたりGDP:2562米ドル(2011年)
- ◇経済成長率:17.3%(2011年)

アクセス

航空=成田および関空からウランバートルへ直行便あり。他にソウル、北京経由など。鉄道やバスでの入国も可能。

— 今回の訪蒙ルート



アリアバル寺院



騎馬民族の系譜を継ぐモンゴル



スフバートル広場にあるモンゴル政府宮殿

奈良大学の強みを結集

今回の協定継続もモンゴル科学アカデミーからの要望でした。欧州アジア十一カ国がモンゴルの考古学調査を行う中、奈良大学の発掘技術や保存科学のノウハウ、調査隊の意欲的な行動が高く評価されたのでしょう。

考古学は発掘するだけではありません。将来を見据えた保存処理や、学術研究の成果を幅広く報告することも、考古学や文化財に携わる研究機関のあり方の一つだと考えます。

協定継続を機に、プロジェクトの代表者が千田嘉博教授（文学部文化財学科）から、向こう三年間は正司哲朗准教授（社会

学部社会調査学科）へと受け継がれました。モンゴルでは文化財学科が中心となって活動していますが、歴史、地理、情報に専門とする人材も大きく貢献しています。

参加している学生や卒業生の若手研究者たちは、現地でもさまざまな経験を積み、ひと回りもふた回りも大きくなって帰ってきます。モンゴルからの留学生を受け入れることもあり、今後、奈良大学とモンゴルの学術を中心とした親交・友情はいつそう発展していくことでしょう。



考古学的に未解明な部分が多いモンゴルにおいて、本プロジェクトが持つ意義と寄せられる期待は小さくありません。

今後はこれまでの三カ年の実績からさらに踏み込んで、遺跡の正確な地図・構造図のデータなど「資料の蓄積」と「植生調査」を進める予定です。

いわゆる「文献研究」も必要ですが、現地・現物から学ぶこともより大切です。モンゴルに先行して、二〇〇四年から西山要一教授を中心として取り組んでいる中東レバノンでの遺跡保存修復（レバノン考古総局との共同事業）もその一例です。

国際的な学術交流は、次代の研究・教育の人材が育つ場でもあります。私たちは「世界から日本を見る。日本から世界を見る」という教育姿勢を実践し続け、その成果を着実に社会に還元していきたいと考えています。

奈良とモンゴルの学術交流は、

次代の研究・教育の人材が育つ場です



奈良の
artist

04

書家

雪心会会長
都祁会主宰

藤岡 都逕

Fujioka Tokai

書家・藤岡都逕さんの筆が走り、跳ね、流れて、止まる。その瞬間、文字という「形」を越えて、書が意思を宿して紙の上に躍動します。書との出会いから五十六年、師の書法研究雪心会を継承し、書作と研鑽、後進育成の日々。「心を写す表現」を求めて、書の道を歩み続けています。

書との出会い、師の教え

藤岡さんが書と出会ったのは昭和三十一年、大学一年生のときでした。それまで書を専門的に学んだことはなかったのですが、高校の担任の先生に勧められ、奈良学芸大学（現・奈良教育大学）芸術学科で書道を学ぶことになったのです。

「当時の書道コースは一学年三人。全学年あわせて十二人で、家族のようでした。私が誰にも師事してはいないというので、四年生の先輩に図録を見せてもらい、強く引き寄せられたのが今井凌雪先生でした」



今井氏（一九二二年―二〇一

一年）は現代日本を代表する書家の一人で、昭和三十二年に談書会（雪心会の前身）を立ち上げ、書の発展向上に尽力してきました。書に関してまっさらだった藤岡さんは、師の「自分で考え、調べ、表現する目標を持つこと。主体的にやりなさい」という教えの下、古典の臨書に精力的に取り組みました。

「古典は、尊厳のある確かなもの」と藤岡さん。三千年を超す文字の歴史の中で廃れずに継承されてきたことへの畏敬の表れです。「古典の臨書は一生の仕事」と言い切ります。

書を表現するための筆・墨・硯・紙、いわゆる「文房四宝」にひ

いきはありません。

「書こうとする書の目標をどこに置
くか、書を通して
何を語るか、それ
に沿った用具用材
の選択は大切です
が、常識にこだわ
らずにやっています。
いろんなものを使っ
てこそ表現したい
ことが見えてきま
すし、そうするこ
とがおもしろいと
思っています」



こだわりは制約を生みます。文房四宝を先入観で選ばないという姿勢には、道具に表現を縛られたくないという思いも含まれているのでしょう。書風を固定せず、自在に書かせてくれた師の考えとも一致します。

書は心をめぐり出すもの

「書ほどその人が正直に出るものはない」「心の内と作品は直結している」が藤岡さんの持論です。古典に向き合い、書を見つめ、やがて生徒を持つ立場になりました。後進には「目標を持ち、自分の字を書けるようになるう」と指導しています。

自分の書確立することは、他人の書き方を模倣するよりも険しい過程です。書の技を豊富に持つことが求められ、さらに体力と精神力、敏感な感性が必要で、「自分の心の中にある自分の表現をしっかりと持つ」ことが、書に対する礼儀といえるでしょう。

会長を務める雪心会が書展を開くと、「これほどバラエティに富んだものはない」という声が聞かれるといいます。土台は古典でも、雪心会の書家の作品は自在で大らか。色とりどりの献立が並ぶ食卓のように、さまざまな書の表現が展開します。

ただし、自在と無秩序は異なります。「書はデザインであって
はならない」と戒める藤岡さん。
自在の中にあつて、書こうとす
る字を敬うこと、書を通して伝
えたいことを明らかにすることは、
書家の掟なのです。

書とは―との問いに、「自分の心の内をめぐり出す営み」と藤岡さん。心をえぐることは苦痛を伴う作業でしょう。作品を創り上げたときの達成感と解放感がそれを和らげてくれます。

書の道は、生き方に置き換えられます。一人の書家として、自己を投影する芸術表現に気力を注ぎ続けます。

Profile

昭和13年奈良県山辺郡（現奈良市都祁）生まれ。同31年より今井凌雪に師事し、同38年日展初入選を果たす。同49年に高校教諭を辞し、書の道に専念。「書法研究都祁会」を主宰するほか、日展評議員、日本書芸院顧問等を務める。平成24年3月、師の跡を継いで「書法研究雪心会」会長に就任した。



道の駅



station

③

吉野路大淀iセンター

野菜・果物・お土産
豊富で新鮮がうれしい



桜と世界遺産の地
吉野熊野への玄関口!



奈良南部の 玄関口へようこそ

駅長 高田勉

吉野路大淀iセンターは吉野方面への玄関口にあたり、春は花見、夏は野外レクリエーション、秋は紅葉、冬は温泉や冬景色を楽しまれる皆さまに、四季を通じてご利用いただいております。

道の駅本来のあるべき姿として、観光案内情報コーナーを充実させ、町内産をはじめとする新鮮な農産物や地域特産品の販売、レストラン等で構成しております。また建物は木の温かさが感じられる吉野杉でできています。

本年8月14日には、お買上げ来場者300万人を達成いたしました。これもひとえに日頃よりお客様にご愛顧いただいたおかげだと、スタッフ一同感謝の気持ちでいっぱいです。今後もお立ち寄りいただくお客様の目線に立ち、親切丁寧なご案内、新鮮・廉価・安全・安心の商品をご提供できるよう努めてまいります。ドライブ中の楽しみの一つとして、当道の駅大淀iセンターのご利用をお待ちしております。

道の駅・吉野路大淀iセンターは吉野杉を使った温かみのある建物が目印。屋根根に突き出た二つの構造物は、修験者の頭巾（と きん）をイメージしています。地元で採れた旬の野菜や果物、花を中心とした直売所が人気で、特産品コーナーには番茶や吉野葛など土産物のほか、併設するパン工房から焼きたてパンが届きます。レストランでもほっとひといき。吉野路幕の内弁当や当駅特製の番茶ソフトクリームがおすすめです。

また、休憩だけではなく、吉野の名所・歴史を知る「情報センター」、吉野の木材で作られ

た器や工芸品、バランスとんぼといった子どもたちに楽しいおもちゃまで揃う「木工市」も常設されています。

駅スタッフのみなさんが温かく迎えてくれる大淀iセンター。吉野方面への行き帰りに通いたくなる道の駅です。

道の駅吉野路大淀iセンター

奈良県吉野郡大淀町声原536-1
(国道169号沿い)

営業時間
特産品&パン 9:00~17:30 (土日祝8:30~)
野菜&花卉 8:30~17:00 (土日祝8:00~)
レストランときん 8:00~18:00 (土日祝7:30~)
※季節により変更する場合あり。

休業日: 火曜 (祝日の場合は営業し、翌水曜休)
駐車場: 普通車80台、大型車10台、身障者用2台
問合せ: TEL.0747-54-5361
ホームページ: <http://yoshinoji-oyodo.com/>



大淀iセンター特選フード



柿の葉すしセット
(そばorうどん)
780円



大和鶏
照り焼き丼
1000円



黒米カレー
790円



バナナケーキ
人気1位のバナナケーキ。
梨、柿など季節限定ケーキも◎



梨ジャム
大淀町特産の梨100%

お土産を
買おう

おすすめがいっぱい

豆腐シリーズ
月間売上ランキングで常に
3~4種がランクインする豆腐
シリーズ

bakery

パン工房



パウンドケーキが一番の人気。ピザパン、ポテトサラダパン、ツイスト、ハムチーズパンなども。曜日季節によっていろいろなパンが登場するから楽しみ。

wood work

大淀木工市



吉野の杉や桧の美しい木目を生かした“作品”たち。お弁当箱や木製マグカップが売れ筋です。どんなものも滑らずしっかりつかめる「受験生の為のすべらないお箸」というアイデア商品も。

information

情報コーナー



吉野、大台ヶ原、天川村、十津川温泉方面の情報ならお任せ!

番茶シリーズ

江戸時代以前から大淀町で生産されてきた番茶は、大淀自慢のひとつ。「吉野大淀日干番茶」は茶葉を天日で乾燥させ、苦味が少なく香り高いのが特徴です。大淀町商工会では大淀番茶を全国区にする「番茶プロジェクト」が進行中!



番茶わらびもち
ぶるんとした弾力が
たまりません。



ラスク&クッキー
ドライブ中のおやつに
GOOD!



番茶ドレッシング
番茶をドレッシングに!?
アイデアが光る人気の品。



茶葉
町を挙げてブランド
化が進行する大淀
町の番茶。

番茶あん食パン
こういう変り種パンを
見つけると、食べたくな
りますよね?



番茶ソフト
クリーム
番茶の粉末で香り
倍増。ここだけの
完全限定ソフト!



奈良県 近代建築散歩

「奈良の建築」と聞けば、寺院や神社の建物を思い浮かべる人が多いでしょう。けれど寺社建築ばかりが特別なわけではありません。明治維新以降、日本が諸外国から学んだ技術とアイデアを結集した「作品」が、奈良にもたくさん残され、今も大切に使われています。古都に息づく近代建築にスポットを当てました。

威風堂々 — 1 奈良少年刑務所

建築自体が背筋を伸ばして屹立しているようです。奈良少年刑務所は 一九〇八年（明治四二年）竣工。一般に見ることができ、煉瓦造の外堀と正門が堂々たる威風を放ちます。設計した山下啓次郎氏が採用した口マネスク建築は、中世西欧の聖堂などに多く見られ、重厚でありながら精美さも兼備しています。毎年九月の「矯正展」では矯正指導の紹介、収容者の作品展示や製品販売、施設見学が行われます。

奈良少年刑務所 所在地／奈良市般若寺町18
 <アクセス> JR・近鉄奈良駅から青山住宅行または州見台行バス「般若寺町」下車。徒歩約3分。

※敷地内は立入禁止
 （矯正展除く）

純真と気品

— 2 奈良女子大学記念館

優雅で落ち着いた雰囲気、女子大学のキャンパスに似合います。奈良女子高等師範学校の本館として、一九〇九年（明治四二年）に誕生。戦後も大学本部と講堂として使用されてきましたが、それぞれ別棟に移り、一九九〇年（平成二年）に「記念館」となりました。一九九四年（平成六年）に国の重要文化財に指定。記念撮影や写生に訪れる人も多く、毎月のランチタイムコンサートや一階展示室の収蔵品を披露する春と秋の一般公開で内部見学が可能です。



奈良女子大学記念館 所在地／奈良市北魚屋東町
 <アクセス> 近鉄奈良駅から北へ徒歩約5分。





奈良ホテル 所在地／奈良市高畑町1096
 <アクセス>近鉄奈良駅より徒歩約15分。
 バスは近鉄・JRともに天理方面行「奈良ホテル」下車すぐ。

おもてなしの風格

3 奈良ホテル

一九〇九年（明治四十二年）開業。皇族、国賓、国内外の著名人らを迎える「関西の迎賓館」としての品格を感じさせます。本館の外観は屋根の鴟尾や白漆喰の壁など奈良の景観への配慮がうかがえます。内装は赤絨毯の大階段、釣燈籠風シャンデリア、階段手すりの宝珠を模した赤膚焼陶製柱頭、マントルピースなど和洋の魅力が競演しています。誉れ高いクラシックホテルで過ごすひとときは、いつまでも色あせない建築美を感じさせてくれます。

森の洋館

4 黒滝村旧役場庁舎

国道三〇九号を下る道中、道の駅吉野路黒滝で左に折れ、黒滝川をさかのぼると、植林帯を背景に瀟洒な木造洋館が出現します。この洋館は一九一〇年（明治四三年）に建てられ、一九一三年（大正二年）から六五年間、村の行政を担った黒滝村旧役場庁舎。当時モダンな建築は、森と山の恵みとともに歩む村で特別な存在だったはず。新しい時代を夢見る林業の村の希望であり、シンボルでした。現在は村の民俗資料館で、見学可能です（十一時～十六時、火曜・年末年始休館／入館無料）。

明治期の図書館

5 大和郡山市民会館

桜の名所として知られる郡山城跡の一角に、一九七〇年（昭和四五年）に移築された旧奈良県立図書館があります。一九〇八年（明治四一年）奈良公園内に建造されたものです。木造二階入母屋造の主棟と、その両脇の平屋建て切妻造の翼部からなり、追手門や追手東隅櫓など復元された城郭建築とも調和しています。随所でにらみを利かす鬼瓦に注目です。

シンプルにりりしく

6 奈良教育大学教育資料館

旧陸軍の糧秣庫^{りょうまぐら}として一九〇八年（明治四一年）に竣工。窓の形状に大小がある以外、軍隊施設であったためか、外観に華美な装飾はありませんが、濃色の煉瓦がりりしい印象を与えます。戦後、奈良教育大学の所有となり、現在は教育資料館として初等中等教育の資料や美術品などを展示・収蔵。一般公開されています（平日十三時～十七時／入館無料）。



黒滝村旧役場 所在地／黒滝村大字栗飯谷1
 <アクセス>近鉄下市口駅からバス約50分「黒滝案内センター」下車。徒歩約15分。



奈良教育大学教育資料館 所在地／奈良市高畑町
 <アクセス>JR・近鉄奈良駅から市内循環バス「高畑町（奈良教育大学）」下車。大学構内。



大和郡山市民会館 所在地／大和郡山市北郡山町
 <アクセス>近鉄郡山駅から徒歩約10分。

印刷文化逍遙 24

古書店めぐりのススメ

何か原稿を書こうと思って考えがまとまらないとき、あるいはどこにも行くあてがなくて時間を余しているとき、そんなときには古書店に行くのが最適である。

ありがたいことに、奈良のような地方都市にも古書店がそこそこある。私が鼻屑にしている店に小西町のフジケイ堂がある。店はさして広くはないが、文庫から新書、それに四六版と菊判の本が所狭しと並んでいる。

私の求めているのは主として文芸書であるが、時には専門外のものに手が伸びることもある。こうしていつの間にか本がたまってしまい、一〇〇冊くらいになっちゃった。ちなみに、その一部を紹介すると、次のよう

になる。

一『汽車旅放浪記』

関川夏央、新潮社

二『二葉亭四迷の明治四十一年』

関川夏央、文藝春秋

三『豪雨の前兆』

関川夏央、文藝春秋

たまたま同じ著者のものが重なったが、氏の書くものはしっかりしていて、なかなか読みごたえがある。

このうち「二」が四〇〇円であつた。あとの二冊は新刊で買ったらしい…。

次に斎藤茂吉の歌集『赤光』がある。これは復刻版で天金ながら五〇〇円であつた。ちょっとした掘り出し物かもしれない。

同じ歌人でも道浦母都子の『吐魯番の絹』は、『無援の抒情』以降、全共闘世代の真情をうたい続けてきた著者の散文集である。これが三六七円。これもなかなか中身があつて興味深い。

古書店で

は不思議な本との出会いがある。

田辺聖子の

『ほととぎすを待ちながら』という一冊は、今はやりのブックオフで一〇五円で求めた。価格の割に中身があつて楽しめる。ちなみに「好きな本とのめぐりあい」という副題が小さな活字で印刷されている。

若い頃、詩人の金子光晴が好きだつた。その金子の息子・森乾が書いた『父・金子光晴伝（夜の果てへの旅）』という分厚い一冊は資料的にも貴重である。

これは八四〇円で、ページが四〇〇近い持ち重りのする一冊。こういう詩人の伝記は珍しく、あまり類書を見たことがない。

さて、訳詩集『堀口大學全集二』を求めたのはいつごろだったのだろうか。たぶん退職後だつ

たと思うが、堀口の詩は学校の教科書にも載っていて親しみやすかつた。

この人の訳詩ではボードレーをはじめ、ヴェルレーヌ、ゲールモン、ポール・フォールなどを読んだことを覚えている。

ちなみに堀口大學は上田敏の『海潮音』と並び、海外の詩を多く訳出、紹介されたことで知られている。

他にやはり若い頃、小林秀雄の訳で『ランボオ詩集』になじんだことを思い出す。小林といえば、やはり中原中也の『ランボオ詩集』があり、一人の女性をめぐって二人の間にトラブルがあり、一つの事件として過ぎていったことを記憶している。



古書店雑学

古書籍業界には出版不況、著作権問題、電子書籍といった波が打ち寄せていますが、古書市場を知る一例として、業界最大手「ブックオフコーポレーション」のブックオフ事業売上を見ると、2003年3月期225億6,400万円、2008年3月期410億7,700万円、2012年3月期520億2,700万円と拡大しています。

全国古書籍商組合連合会には約2,300店が加盟しているとされ（同連合会HP「日本の古書店」による）、NTTのタウンページをたぐれば、全国で4,575件、奈良県で42件がヒットします。

古書店街というと東京・神田神保町が有名。大阪では梅田の「阪急古書のまち」に古書店が連なっています。商業施設やイベント会場で開かれる「古書即売会」に立ち寄るのも一興です。関西では大阪の「四天王寺古本祭り」「天神さんの古本まつり」、京都の「下鴨納涼古本まつり」「秋の古本まつり（知恩寺）」などが知られます。

中也の詩集『在りし日の歌』の復刻版も、あの青山二郎の装丁が懐かしい。これが古書価八〇〇円であった。

ところで私を古書の道に導いてくれた一冊がある。それは英国の作家ジョージ・ギッシングの『ヘンリー・ライクロフトの四季随想』（松田銃訳・河出書房新社）である。この一冊は英

国十九世紀文学の傑作の一つで、訳はいろいろあるが、現在はこの松田訳が一番であろう。

さらに、私に本の道と文学の精髓を教えてくださいましたものがある。それは仏文学者・鈴木信太郎の『記憶の蜃気楼』である。鈴木は辰野隆の僚友で、特に『ヴィヨン全詩集』（岩波文庫）、『ボードレール『悪の華』（岩波文庫）』の訳出の第一人者であることはつとに知られている。随分と横道にそれてしまった。肝心の古書の話に戻ろう。古書の話といえ、何といつても落語家柳家金語楼のご子息・山下武の古

書エッセイが優れている。

『古書を求めて』をはじめ、『古書縦横』『古書のある風景』『古書の誘惑』『古書のざわめき』など、自己の古書店めぐりを基盤とした古書エッセイは、古書収集家の第一人者であることを示している。

ところで古書店めぐりをしていて一番うれしいことは、探し求めていた一冊とめぐり合うことである。

しかし、それはおいそれとはいかない。長い間こつこつと、それこそ十年一日のごとく古書店をめぐり歩いて、ようやく求めていた一冊とめぐり合うときが到来するのである。

私にとって、そんな一冊こそ、佐藤朔訳のボードレール『悪の華』であった。

ある日、行きつけの古書店に行ってみた。そして何気なく書棚を見ると、何とそこには、あのボードレールの『悪の華』があるではないか。訳者がかつて慶應義塾大学の塾長をした佐藤朔であった。

私は棚から本を取り出して、おそろおそろ値段をのぞいてみた。すると三五〇〇円とあるではないか。今の私にとって決し

て廉価ではないが、これくらいのお金なら持っている。ためらうことなく、その一冊を持ってレジに急いだことは言うまでもない。

奥付を見ると昭和十六年三月二日、初刷二〇〇〇部発行とあった。あの太平洋戦争が始まる年の三月発行だったのだ。発売は第一書房、発行者は長谷川巳之吉、いずれも馴染みの深い名前であった。

かくして運命的な出会いのもとに、私の所有に帰せられることになったのである。



嘉瀬井 整夫

【かせい ただお】

1934年京都市に生まれる。

1949年より94年まで印刷産業に従事。

奈良県立短期大学（現奈良県立大学）卒業。

主著『井伏鱒二私論』

『奈良大和路文学散歩』

『奈良高畑日記抄』ほか。

文芸評論家。

特集

奈良の城五

宇陀松山城

奈良にも多くの城が存在した。時代の流れと共にそれは城跡となり、私達の心から忘れ去られようとした。再びその存在を知り、そこに息づくエピソードを紐解く。それは、私達のルーツを知ることになる。

城主の盛衰見つめた激動の城

「宇陀松山」と言うと、重要伝統的建造物群保存地区に指定されている城下町の町並みを思い浮かべる人が多いかもしれません。ではなぜここに町が整備され、現代に継承されてきたのか。町並みの東、なだらかな稜線にヒントが見つかります。

そこにはかつて城が築かれていました。国史跡の宇陀松山城です。詳しい築城年代は判明していませんが、遅くとも南北朝時代には周辺地域を領分していた「宇陀三将」の一角である秋山氏が居城していたとされます。

宇陀は奈良と吉野、伊勢、熊野が交わる要衝の地。時は戦国、一五八五年、豊臣家の支配が大和国に及ぶと、秋山氏は宇陀から退去しました。

郡山城、高取城とともに「大和三城」と称された城は、豊臣方諸將の伊藤義之、加藤光泰、羽田正親、多賀秀種らの勢力下を転々とします。その間の改築や整備に相応の資金・人力が必要だったはずで、豊臣政権が大

和国を治めるのに、宇陀松山城を重要視していたことがうかがえます。

秋山氏の居城時代には「秋山城」と称された城も、関ヶ原の戦い後に入城した福島高晴の時代に「松山城」と呼ばれるようになりました。

高晴は賤ヶ岳の戦い（一五八三年）で羽柴（豊臣）秀吉軍の「七本槍」として武功をあげた福島正則の弟です。関ヶ原では徳川側に属しましたが、一六一五年の大坂夏の陣で大坂方に味方したと疑われ、福島氏は改易処分、宇陀松山城は廃城処分になりました。

一方、城下町は江戸幕府の天領となり、葉・油・紙・酒・葛などを商う町家が軒を並べる「商家町」として栄えました。

シャチやゾウの瓦製品が出土

ふもとの春日神社から整備の行き届いた登城道が延びています。木立を抜けてまず目に触れる大規模な横堀や石垣を見上げながら本丸跡地に到着。春日神社が

本丸跡から天守閣を望む

城の特徴



●西口関門

約400年前に城下町の出入口に築かれ、町民には「黒門」と呼ばれて親しまれています。昭和6(1931)年に国史跡に登録されました。



●春日門東櫓 (春日神社前)

16世紀末～17世紀初に築造された春日門は、松山城下の町人エリアと武家エリアを隔てるために設けられました。現在東西2つの櫓台が残っています。



●横堀

木立を抜けるとV字に切れ込んだ横堀が迫ってきます。深さ約7m。城郭のスケールが想像できます。下草を刈っていただいているおかげで見学できます。



●鯰瓦や象形瓦製品が出土

宇陀市教委による3年間に及ぶ発掘調査で、天守閣の鯰瓦や門飾りに使用されたと思われる象形瓦の一部など、貴重な遺物が多数出土しました。両瓦製品は2012年に復元されました。



上写真2点 宇陀市教育委員会提供



●本丸御殿想像図 (江戸時代初頭)

天守郭の西側に広がる本丸は東西50m×南北45mで城内最大の郭。本丸御殿は平屋で、「広間」「遠侍」「家臣溜」「書院」「台所」で構成されていたという。

宇陀市教育委員会提供

登城後は、江戸時代後期～明治時代の町家が残るノスタルジックな町並みを散策。

伝統的町並みを散策

茶人としても知られる小堀遠州が廃城を司った際の書状も見つかっており、貴重な史料からも、宇陀松山城の盛衰が浮かび上がります。

宇陀市教育委員会の発掘調査では、本丸御殿や石垣などの規模が明らかになりました。さらに一六世紀末に製造されたと思われる鯰瓦や象形瓦製品、同時に城主だった多賀家の家紋入り瓦も出土しました。

山城のスケールを想像しながら、その名残を感じ取ることができると良いでしょう。

城の雄姿は現存していませんが、石垣や石段道などが完全に破壊されず、一定規模残されていることは現代の私たちにとって幸運なのかもしれません。

廃城の際に人手不足だったのか、眺望できます。眺望の際に人手不足だったのか、石垣や石段道などが完全に破壊されず、一定規模残されていることは現代の私たちにとって幸運なのかもしれません。



道の駅で手に入れた散策マップを片手にゆっくりと巡れば、往時の城下町の息吹を体験することができると良いでしょう。

日本最古級の薬草園「森野旧薬園」、情報と土産の拠点「道の駅宇陀路大宇陀」、大宇陀温泉「あきののゆ」なども、おすすめの立ち寄りスポットです。

明治前期の町家を改修した松山区まちづくりセンター「千軒舎」では、町家内部の見学が可能です。

格子、虫籠窓、駒寄せ、卯建など伝統的な建築パーツに視線が吸い寄せられます。

アクセス 電車でのアクセス／近鉄大阪線榛原駅からバス、大宇陀バスセンター(道の駅／約15分)下車。車でのアクセス／西名阪道針ICから国道369号、榛原から国道370号・166号で大宇陀へ

命が吹き込まれる



雪心会 藤岡都選会長の作品「穆如清風」

Imajin21

今
創
造
人

悠久の歴史の流れ、古の都は
今も、その面影を色濃く残す
いくつものドラマがあり
新たな時代が生まれた
そこから先人の英知を知り
人を見つめ直す
そして「今」を創造す

KYODO SEIHAN PRINTING



そして紙ができ

木
林
が
あ
り

樹
が
育
ち



本誌は、「FSCミックス認証紙」を使用しています。

